日本語の受身表現と韓国語表現の比較
－翻訳小説を資料とした韓日対照を通して－

蟹江美幸*
miyuki0713kanie@hotmail.com

<目次>

1. 背景と目的
2. 先行研究
3. 日本語の語用と韓国語の語用
　3.1 日本語の受身
　3.2 韓国語の受身
4. 研究方法
　4.1 言語資料
　4.2 研究方法
5. 結果
　5.1 能動表現に訳される日本語受身文
　　5.1.1 自動詞の受身
　　5.1.2 使役受身
　　5.1.3 伝聞の受身
　　5.1.4 非情の受身
　　5.1.5 所有の受身
　5.2 問題となる相違点
　　5.2.1 受身と使役の曖昧性
　　5.2.2 받다で対応する受身
　　5.2.3 その他の表現
6. 結論

主題語: 受身(passive), 能動(active), 語用論(pragmatic), 責任(responsibility), 韓国語(Korean), 日本語(Japanese)

1. 背景と目的

日本語と韓国語は、両言語が他の言語と比べて文法的、表現的にも似通っているため、互いの学習者にとって習得しやすい外国語である。しかし、学習者が文法的に正しい日本語を使用しているつもりでいても、両言語のわずかな相違点が原因となり、自分の意図しないことが伝わってしまう場合がある(蟹江2014)。日本語上級学習者でも、日本語の受身を使用すべき場面で適切な表現を使用することは難しいという。

韓国語にも受身形に相当する形態は存在するにもかかわらず、日本語の受身が学習者にとって困難な理由は、日本語と韓国語は、形態だけでなく、発想的にも相違点があると考える。だが、学習者がそれを感じ取ることは難しい。例えば、受身で表現した内容を能動

* 愛知淑徳大学大学院　博士後期課程

表現した場合、叙述内容は同じであっても、日本語話者には違った印象を与える可能性がある[1]。しかも、その場面にふさわしくない表現を使用すると、誤解が生じる危険性もある。

本研究では、翻訳小説や随筆に現れた、日本語受身文とそれに相当する韓国語表現を比較対照し、韓国語と発想的に相違点が存在する日本語の受身文を取り上げる。そして、それらの表現から、日本語受身表現の特徴について考察する。そして韓国人学習者の日本語受身文指導における注意点を示唆することを目的とする。

2. 先行研究

日韓の受身文[2]については、多くの研究で議論されてきている。李(1991)は、日韓の受身構文を形態的、統語的、意味的な面から分析し、次のように述べた。日本語の受身形は自動詞と他動詞から規則的、かつ生産的に作られる。一方、韓国語では受身は他動詞に限られており、日本語の受身文と比べて動詞の現れ方が極めて複雑な様相を呈し、非生産的に作られる。そして日本語の所有主の受身文や被害の受身文は、韓国語では能動表現を使う傾向がある。

日韓両国の日常生活における受身文の使い方を、実践的なアプローチから分析を行った許(2004)は、韓国語を母語とする日本語学習者は、形態的な特徴や意味の理解は早いものの、語用的[3]特徴は理解しにくく、上級者レベルまで学習が進んでも、受身文をうまく使いこなす学習者はさほど多くないという。理由として、韓国語の被動文の意味や特徴、形態に関する認識が不十分であることや、両国の日常生活における受身文を、十分に理解していないことを挙げている。

金(2003)は、韓国語の被動態の体系と特徴を、日本語の受身表現に対比させるという方

---

1) よく例に挙がるのは、「女房に逃げられた」と「女房が逃げた」である。前者は逃げた原因は自分にもあったかのような、自己反省の印象もあるが、後者は逃げた妻が悪いと妻だけを責める印象がある、という違いがある。

2) 本研究では、日本語「れる」「られる」で表現される構文を「受身構文」と呼ぶことにする。表現に焦点を当てる場合は「受身表現」、文単位に注目した場合は「受身文」と呼ぶ。先行研究の用語は、各論文に従う。

3) 「語用論」《pragmatics》記号論の一分野。記号をその使用者の立場から研究するもの。(デジタル大辞泉)

向で考察し、両言語の被動態と受身表現は使用範囲と意味機能の範囲が異なるため、対応させるときに問題が生じると述べている。

千、柏原(2006)では、日本の文学作品を対象に、日本語の受身文がどのように韓国語に翻訳されているか調査し、能動文で表現した実例を分析した。結果、他動詞の受身文は韓国でも受身文と対応する場合があるが、自動詞の受身文はすべて韓国語の能動文と対応するという。そして、日本語の受身文が韓国語では能動文で対応する理由は、単なる被動文の成立の制約だけではなく、視点の違いによるものであり、日本語は動作を引き起こした過程や結果に注目するが、韓国語では動作主の動作に視点があると説明している。

日本語と韓国語における受身文の対照研究により、両言語の文法的特徴の違いについて、多くのことが明らかにされてきた。学習者の立場から論じたものとして、韓国語では受身文より能動文を使用する傾向があるというが、受身文を使用せず能動文で表現した場合の、日本語母語話者が受ける印象について議論がない。また、日本語にも韓国語にも受身と能動に相当する形態があるのにもかかわらず、なぜ日本語では受身文を多用する必要があるのか、日本語と韓国語で視点の置き方や焦点に差異が生じるのは何故かについては言及されていない。

許(2004)の指摘の通り、学習者にとって目標言語である日本語受身文の語用的特徴を理解することは難しい。本研究は語用論的な見地から日本語の受身文と韓国語表現について考察する。

3. 日本語の語用と韓国語の語用

第二言語習得の過程において、非母語話者である学習者は、自己の母語である第一言語である韓国語の特徴を目標言語である第二言語の日本語に転移させる傾向がある。つまり、母語の言語習慣が妨げとなったり、母語の影響で誤りを犯したりすることがある。これを母語の干渉という。

学習者の誤りには、文法的誤りと語用論的誤りがある。学習途上にある能力の不足による、文法的誤りと比べ、語用論的誤りは、話者である学習者が意図しないところで誤解を生む危険性がある誤りである。話者の人格や人間性の判断につながることがあるため、上級者であれば特に注意を要する誤りであると考える。Thomas(1983)は、語用論的誤りを、

社会語用論的誤り(sociopragmatic failure)と言語語用論的誤り(pragmalinguistic failure)の二つに区別している4)。

日本語の語用論的現象と韓国語の語用論的現象には違いがある。学習者が日本語を習得する際には、認識しておくべき、日本語の語用論的特徴が存在する。

韓国語話者の例として、要求表現を使用する場面で日本語話者と韓国語話者が使用するポライトネスの相違から生じる誤りがある。日本語話者は迷惑をかけることを好まず、言葉ではっきりと示さず、相手に察してもらうことを期待しながら、心的距離を取り、遠慮がちに助力を願うネガティブポライトネスを使用するのに対して、韓国語話者は心的距離が近く、親しくなるために迷惑をかけることは悪いことではなく、はっきりと自分の要求を伝えるポジティブポライトネスを使う(蟹江2013)。

その差異が原因で、韓国語話者は日本語話者を「冷たい」「ケチである」と認識したり、日本語話者は韓国語話者を「図々しい」「見栄っ張りだ」と認識したりと、お互いに不適切な言語行動として認識する危険性がある。

言語語用論的誤りは、学習者が使用する母語の表現が持つ意味と、それに対応する目標言語が持つ意味が一致せず、その差異によって生じる誤りである。例えば、韓国人学習者は日本語の「~てあげます」「~てさしあげます」を多用する傾向があるが、学習者は韓国語の~주다、~드리다をそのまま日本語にしただけで、韓国語の~주다、~드리다には恩着せがましさは含まれない。だが、日本語話者は不適切な印象を受けてしまう。日本語では、自分が相手に何かをしてあげるという優位な立場からは敬語は表現できない。相手に恩恵を与えることを言葉で表現することは適切ではないからである。本研究では言語語用論的誤りの立場から、両言語を比較対照する。

3.1 日本語の受身

日本語の受身5)文は、助動詞「れる、られる」を用いて表現する。大きく分けると、直接対応する能動文中の目的語を主語としてあらわす直接受身6)、直接対応する能動文の要素とは別に主語を立ててあらわす間接受身7)の二種類である。

---

4) 内田(2013), p.23より引用
5) 本研究では、受身、受け身、被動態、受動態のすべて「受身」と呼ぶ。先行研究の呼称は著者に従う。
6) 例) 先生はその生徒を褒めた。→その生徒は先生に褒められた。(ヲ格の受身)
彼女は両親に頼った。→ 両親は彼女に頼られた。(二格の受身)
東京でオリンピックを開催する。→ 東京でオリンピックが開催される。(非情の受身)

受身文は基本的に他動詞文から作られるが、日本語の受身の特徴である間接受身には自動詞の受身も存在し、ほとんどが迷惑の意味を表わす。また直接受身には動作主が表現せず、非情物を主語とし、迷惑や被害の意味を表わさない、一般的な事実を述べる非情の受身も存在する。

受身の助動詞「~れる」「~られる」は、以下に示すように、ほとんどの動詞に接続可能で規則的である。日本語の受身基本形と分類および例は、筆者が作成した表1、表2に示す。

＜表1＞　日本語受身基本形

種類	作り方	例
五段動詞(Ⅰ型)	語幹＋areru、 または「ない形」＋れる	書く　＋　れる　→　書かれる
一段動詞(Ⅱ型)	語幹＋られる	見る　＋　られる　→　見られる
不規則動詞(Ⅲ型)	―	来る　→　来られる する　→　される

＜表2＞日本語受身の分類

動詞の種類	直接受身	間接受身
自動詞	―	迷惑・被害の受身
他動詞	ヲ格の受身 ニ格の受身 非情の受身	ノ格の受身(体の一部・持ち物) ニ格の受身

3.2 韓国語の受身

韓国語の受身[8]は大きく2つの方法で形成される。他動詞の語幹に受身の接尾辞である被動詞 '이、히、리、기'を付けて形成された短形受身[9]、他動詞の語幹に補助連結語尾の'-어(아)지다'を付けて形成される長形受身[10]である。2つのタイプ以外にも、~하다が~되다に

7) 例) 雨に降られた。(自動詞の受身)
家の前にビルを建てられた。(他動詞の受身)
財布を盗まれた。←誰かが私の財布を盗んだ。(ノ格の受身)

8) 韓国語では被動態という呼称を使用するが、延世大学出版「韓国語文法」に従い、「受身」を使用する。

9) 他動詞の語幹に接尾辞'-이、-히、-리、-기'を付けた動詞は被動詞と呼ばれ、日本語の受身形「~れる」「~られる」に相当する。４つの接尾辞のどれが付くかは、元の他動詞の語幹末の音によってほぼ決まる。

なったもの[11]、動作名詞＋당하다、動作名詞＋맞다、動作名詞＋받다[12]など、日本語受身文「~れる」「~られる」に相当する表現がある。당하다、맞다 は被害や迷惑を含む否定的な体言に付き、받다は肯定的、中立的な意味の体言に付く。韓国語の受身基本形と分類および例は表3に示す。

＜表3＞韓国語受身基本形

種類	作り方	例
短形受身	語幹　+-이、-히、-리、-기	쓰다 (書く)　→　쓰이다(書かれる) 먹다(食べる) →　먹히다(食べられる) 밀다(押す)　→　밀리다(押される) 안다 (抱く)　→　안기다(抱かれる)
長形受身	動作動詞 +　어(아여)지다	만들다(作る) → 만들어지다(作られる)
~되다	~하다　→ ~되다	개최(開催)하다 ＋되다 → 개최되다(開催される)
動作名詞の受身形	動作名詞＋당하다、맞다、　받다	감시(監視)＋당하다 → 감시당하다(監視される) 도둑(泥棒)＋맞다 → 도둑맞다(盗まれる) 사랑(愛)＋ 받다 → 사랑받다(愛される)

出典:「韓国語文法」(延世大学校出版部)を参考に筆者作成

10) 動作動詞に補助連結語尾'-어(아여)지다'が連結される形態であるが、すべての動詞に連結されるわけではなく、'-이、-히、-리、-기'の接尾辞をつけるか、'-어(아여)지다'が連結されるかは、語彙的に決まっている。

11) 하다動詞の하다を되다(なる)にすると、日本語の受身に相当する意味となる場合がある。되다 は原義が「なる」なので、自分の意志ではなく、まわりの状況から自然にそのようになる　というニュアンスになる(山田、前田2011p63より引用)。この場合の하다動詞は他動詞であるが、~되다となることによって自動詞となる。(하다動詞→되다)

12) 動作名詞に당하다、맞다、받다が付くことによって、日本語の「~れる」「~られる」に相当する受身を表現することができる。韓国語の受身の分類は意見が分かれるところであるが、日本語の「~れる」「~られる」に対応する韓国語表現を全て受身文として取り上げた。

4. 研究方法

4.1 言語資料

本研究では日本語小説、随筆とその韓国語翻訳、韓国語小説、随筆とその日本語翻訳を調査対象資料[13)]とする。これらの小説を調査対象とする理由は、まず、どちらも対応する翻訳が存在し、両言語を比較対照するのに効果的である。次に、どの作品も現代文学であり、原文は現代語で書かれている、したがって現在の言語現象を分析するのに適していると考える。そして、場面の設定も明らかであり、そこに現れる表現の意図も明確なものとなって現れている。

作品により表現の偏りが生じることを回避するため、複数の作家の作品を選んだ。翻訳者に関しても、作家が同じ作品である場合、翻訳者が重複しない作品を選んだ。翻訳者により異なる翻訳が可能となるが、いずれも翻訳小説として成立し、言語資料として扱う場合、韓国語母語話者の自然な韓国語表現であると考えた。

抽出した日本語の受身表現に対応する韓国語表現のうち、韓国語受身の基本形に対応していない表現には直訳を付けた。直訳を通して韓国語と日本語の表現の相違点を比較対照する。直訳はすべて筆者による。言語資料は7作品13冊を選んだ。参考文献のあとに示す。

4.2 研究方法

日本語は韓国語より受身表現を多く使用すると言われることから、韓国語小説、随筆の日本語翻訳と比べて、日本語小説、随筆には「~れる」「~られる」表現が多く表れる、と仮説を立てる。日本語の受身表現と韓国語表現の相違点を明らかにするため、韓国語受身の基本形に対応していない表現を、日本語受身を通して分析する。

韓国語を直訳すると、日本語としては不自然な表現になるが、訳出された日本語表現には韓国語表現の特徴が現れるため、原文の日本語表現と比較対照する良い資料となる。日本語受身文と、韓国語の影響を受けた日本語表現の意味的な相違点について考察する。

---

13)『告白』、『おおきなかぶ、むずかしいアボカド』、『キッチン』、『すいかの匂い』、『ホテルカクタス』は日本語母語話者によって書かれた小説であり、『楽器たちの図書館』、『ピ・チョンドゥク随筆集』は韓国語母語話者によって書かれた小説、随筆である。本文中では『おおきなかぶ、むずかしいアボカド』については「かぶ」、『すいかの匂い』は「すいか」、『ホテルカクタス』は「ホテル」、채소의 기분, 바다 표범의 키스は채소、수박 향기は 수박、호텔 선인장は호텔、と表記することにする。

5. 結果

韓国語小説『楽器たちの図書館』、韓国語母語話者による随筆『ピ・チョンッドゥク随筆集』では、「れる」「られる」受身表現の出現はそれぞれ11例、15例であり、日本語母語話者によって書かれた日本語小説、随筆の受身表現の出現頻度に比べて極めて少なかった。つまり、日本語小説や随筆に比べ、韓国語小説や随筆では、受身文使用の場面が少ないことが明らかとなった。従って韓国語小説、随筆の日本語翻訳と比べ、日本語小説、随筆 には「~れる」「~られる」表現が多く表れるという仮説は証明された。

＜表4＞　日本語受身文と韓国語表現の対応

分類	告白	かぶ	キッチン	ホテル	すいか	総数	割合(%)
能動文	236	71	26	19	3	355	54.36
이히리기型	46	10	4	12	3	75	11.49
지다型	11	6	5	2	2	26	3.98
되다 型	30	13	7	5	2	57	8.73
動作名詞型	71	11	7	11	2	102	15.62
その他[14]	6	23	5	2	2	38	5.82
例文総数	400	134	54	51	14	653	100.00

筆者作成

また、表4に示すように、抽出された653例の日本語受身文のうち、54.36%は能動表現に対応している[15]ことがわかった。つまり、言語事実が同じでも、日本語では受身文で、韓国語では能動文を使用する傾向が強い。例えば(1)で示すように、「いたずらされるのが」は장난을 친다는(いたずらをするのは)となっているのがわかる。

(1)　いたずらをされるのがその証拠だ。　原文(告白, p.77)
　　장난을 친다는 게 그 증거다.　翻訳(고백, p.81)
　　(いたずらするのがその証拠だ。)　筆者訳

韓国語基本受身形に対応しない例文を、日本語受身の特徴に従い分類し、考察する[16]。

14) 「その他」の例については5.2.3で扱う。
15) 韓国語の受身基本形に対応している例は45.64％であった。

5.1 能動表現に訳される日本語受身文

5.1.1 自動詞の受身

日本語には自動詞[17]の受身が存在する。自動詞の受身は、ほとんどが迷惑や被害の意味を表わす[18]、日本語特有の表現であるといえる。

自動詞の受身が韓国語で、どのような表現として表れているか見てみると、例文(2)の「参観日に来られても」は수업 참관일에 찾아왔을 때도(授業参観日に来た時も) 、例文(3)の「奥さんに逃げられ」は부인은 도망가고(夫人は逃げて)のように、韓国語では能動表現で対応している。

日本語表現と韓国語表現との相違点は次のようである。日本語では「来られても」「逃げられ」と受身文を使用し、視点が動作主から外れ、動作の責任は動作の受け手にも感じられる表現となる。それに対して、能動文の韓国語表現は、迷惑や被害の気持ちを自分に向けるのではなく、動作主に焦点が当たるため、動作主へ責任が向けられ、非難の気持ちも感じられる表現となる。

(2) 参観日に来られても、イヤではなかった。 原文(告白, p.215)
수업 참관일에 찾아왔을 때도 싫지는 않았다. 翻訳(고백, p.214)
(授業参観日に来た時もいやではなかった。) 筆者訳

(3) 奥さんには逃げられ、仕事には恵まれず、 原文 (かぶ, p.172)
부인은 도망가고, 일도 변변찮고, 翻訳(채소, p.174)
(夫人は逃げて、仕事もぱっとせず、) 筆者訳

一方、直接対応する能動文のない間接受身には、被害や迷惑を表わさない場合がある。例文(4)のように、被害や迷惑を表わさない日本語の受身文については、複数の作品の韓国

16) 本研究は、日本語では受身文であるが、韓国語では受身文ではない表現に焦点を当てるため、韓国語でも受身文で対応する例は扱わない。韓国語の受身文に対応する日本語表現については、次の課題とする。
17) 自動詞とは、その表わす動作・作用が他に及ばないで、主体の動きや変化として述べられる動詞。ふつうは目的語をとらない。他動詞とは、動詞の中で、その表す動作・作用が直接他に及ぶ意味を持つもの。動作・作用が及ぶ対象は格助詞「を」のついた目的語として表される。(明鏡国語辞典)
18) 韓国語も形容詞と自動詞の被動化は可能であるが、日本語の「迷惑の受身」と意味を異にする(金2003)。

語翻訳で、주다(くれる)を用いた恩恵表現で対応している。

例の小説では、故郷の両親に仕送りをするのが生き甲斐である息子が、両親に給料全額を送り、その息子の心根に両親も打たれているという。「息子から送られたお金」は迷惑や被害の対象ではなく、息子に対する恩恵の気持ちである。もちろん日本語でも「送ってくれたお金」と授受表現も可能である。しかし、ここでは前後の文脈から感謝の気持ちは汲み取れるように表現されており、直接表現してはいない。このように日本語と比べて韓国語では恩恵も明確に表現する例が見られる。

(4)　息子から送られたお金で、彼らはちょっとしたものを買いました。　原文(ホテル, p.66)
부모님은 아들이 부쳐준 돈으로, 대단치는 않지만, 물건을 삽니다.　翻訳(호텔, p.82)
(両親は息子が送ってくれたお金で、大したものではないが、品物を買います。)　筆者訳

5.1.2　使役受身

使役「させる」で言い表された内容が、さらに受身「られる」で表現される文を使役受身文「させられる」である。行為が強制される意味を、被使役者側から表現する表現である。被使役者が、迷惑だ、嫌だと感じていることを、強制的に実行されることを表現する場合に使用される。日本語の使役受身文「させられる」は、そのまま韓国語にすることはできないため、「させられる」を使用する場面を理解できない学習者がいる(河村2009)という。以下に例で示すように、日本語の使役受身文も、韓国語では能動文として表現されている。

日本語の原文では、(5)「引かされてしまった」、(6)「仰天させられた」と 使役受身を使用して、自分はそうしたくはないけれど強い力で、くじを引いてしまう、仰天してしまうのである。つまり、他者の力によりその動作が実行され、その結果を仕方なく受け入れる、諦めにも似た気持ちが感じられる表現である。そして、日本語では被害や迷惑の気持ちを直接表現しない。それに対して韓国語の「引いてしまった」、「仰天した」のような能動表現は、主体が自分の意志でその行動をしたこととなり、責任の所在が明確である。日本語に隠された被害や迷惑、諦めの気持ちは含まれない。

(5)　どうして直樹はあんなはずれくじを引かされてしまったのでしょう。　原文(告白, p.120)
어째서 나오키는 그런 제비를 뽑고 말았을까요.　翻訳(고백, p.123)
(どうして直樹はそのようなくじを引いてしまったのでしょう。)　筆者訳

(6) その切り替えのあまりの速さに、僕は仰天させられてしまった。 原文(かぶ, p.133)
너무나 빠른 전환에 나는 기겁했다. 翻訳(채소, p.135)
(あまりにも速い切り替えに私は仰天した。) 筆者訳

5.1.3 伝聞の受身

日本語小説、随筆中の「~れる」「~られる」に対応する韓国語翻訳を見てみると、能動文として表れた336 例の動詞のうち、「言われる」「聞かれる」「訊かれる」「尋ねられる」など、日本語では伝聞を表わす動詞は受身で表現される傾向があるが、韓国語では能動表現をすることがわかる。

例えば、「言われる」に相当する韓国語動詞は、하다、말하다、묻다、질문하다のように、「言う」、「聞く」「質問する」という伝達動詞を使用している。そして韓国語(7)では「誰かが」、(8)では「愛美が」(9)では「おばあさんが」と、さらに主語を明確にした能動表現となっている。それに対して、(7)(8)(9)の日本語表現には主語は明示されていない。

ところが、(10)では動詞は、「言う」ではなく、듣다「聞く」で表現しており、動作主は日本語と同じ、言われた本人である。つまり、視点は日本語と同様、動作の受け手にある。このように、受身ではないが、日本語と同じ視点で、能動表現する例が複数の翻訳[19]に見られた。このことから日本語の受身文とそれに対応する韓国語表現の相違点は視点だけではないこともわかる。

日本語では受身の使用で、視点を自分に向け、行う動作の主体の発言の責任を、無意識に外し、動作主も明示しない傾向がある。それに対して、韓国語では能動形を使い、その発言の主体を明確にする傾向がある。韓国語表現は情報を客観的に伝達している。しかも、問題の責任の所在を明らかにしている。これに対して、日本語では動作の主体を明示したり、追求したりすることなく、責任の所在を曖昧にしている。曖昧さによって人間関係を円滑に保っているといえる。

(7) 誰かにきっぱり言われると、つい「そうかな」と思ってしまいそうになるけど、
原文(かぶ, p.13)
누군가 단호히 말하면 무심결에 그런가? 하게 될 것 같지만, 翻訳(채소, p.15)
(誰かがきっぱりと言えば、つい、そうなのか？になりそうだが、) 筆者訳

19)『告白』では7例、『かぶ』では4例見られた。

(8)　愛美に一度だけ、「パパは?」と訊かれたことがあります。　原文(告白, p.18)
마나미가 딱 한번 "아빠는?"하고 물은 적이 있습니다.　翻訳(고백, p.21)
(愛美が一度だけ、「パパは?」と聞いたことがあります。)　筆者訳

(9)　一度、大葉をとってきなさいとおばあさんに言われたことがある。　原文(すいか, p.11)
한번은 할머니가 차조기 잎을 따 오라고 했다.　翻訳(수박, p.11)
(一度おばあさんが大葉をとってこいと言った。)　筆者訳

(10)　そんなこといまさら言われても、もう手遅れだ。　原文(告白, p.181)
이제 와서 그런 소리를 들어봤자 이미 늦었다.　翻訳(고백, p.181)
(今になってそんなことを聞いたところで、すでに遅かった。)　筆者訳

5.1.4　非情の受身

非情の受身は近代以降、西洋語の翻訳の影響で発達した受身であるといわれる。状況描写の場面で使用される非情の受身は、以下のように、韓国語では能動表現、受け身表現のどちらも対応している。韓国語も日本語と同様に西洋語の影響を受けた表現を使用していることがわかる。

(11)　バレンタインフェアが開催されていました。　原文(告白, p.20)
밸런타인데이 행사를 하고 있더군요.　翻訳(고백, p.23)
(バレンタインデー行事をしていますね。)　筆者訳

(12)　「世界スーパーモデル会議」みたいのが開催されていて、　原文(かぶ, p.28)
세계 슈퍼모델 위크같은 것이 열리고,　翻訳(채소, p.30)
(世界スーパーモデルウィークのようなものが開かれて、)　筆者訳

5.1.5　所有の受身

動作や行為を受けた人を主格補語にして、その人の所有する体の一部や持ち物にその動作や行為が及んだことを表わす受け身を「所有の受身」という。所有の受身も韓国語表現では、例文(13)のように能動文で表現されている。韓国語では日本語で表現されていな

い[20]、動作の主体である「誰か」を明示し、動作の責任の所在を明確にしようとしている。

もちろん日本語でも直訳のように、「誰かが私の腕をつかまえて、」という表現が可能であるが、所有の受身で表現し、腕をつかんだ主体を曖昧にした表現とは、聞き手に与える印象が異なる。

(13) いきなり腕をつかまれ、廊下に引きずり出された。 原文(告白, p.176)
누가 갑자기 내 팔을 붙잡아, 복도로 끌고 나갔다. 翻訳(고백, p.175)
(誰かが急に私の腕をつかまえて、廊下に連れて行った。) 筆者訳

5.2 問題となる相違点

5.2.1 受身と使役の曖昧性

韓国語では、受け身の使役も同じ語形であり、 動詞の形だけでは、どちらであるかは文脈によって判断することがある。韓国語では受身と使役の区別が曖昧である。例えば、(14)は受身、使役のどちらにも解釈可能である。許(2004)の、学習者が「韓国語の被動文の意味や特徴、形態に関する認識が不十分」と指摘した原因は、ここにあると考える。

だが、日本語で「芸術家のように見られたい」と受け身で表現すると、本人は芸術家であることを認められたいが、あえて自己表現をすることなく、自然にまわりからそう評価されることを、心の中で願っていると解釈できる。そして、自分に芸術家として能力があるのなら、まわりが自然に認めてくれるだろう、という謙虚な気持ちもうかがえる。だが、韓国語直訳のように、「芸術家のように見せたい」と使役で表現した場合、自ら芸術家であることを強くアピールしている積極性が感じられるが、謙虚さは感じられない。

(14) 芸術家のように見られたいという切なる望み 翻訳(楽器たちの図書館, p.39)
예술가처럼 보이고 싶은 간절한 바람 原文(악기들의 도서관, p.117)
(使役訳： 芸術家のように見せたい切なる願い)→積極的な印象 筆者訳
(受身訳： 芸術家のように見られたい切なる願い)→謙虚な印象 翻訳

20) 日本語の原文には現れていないが、「誰かに」と表現する場合も可能であるが、日本語表現の動作の主体は「私」であり、「誰か」 ではない。

5.2.2　받다で対応する受身

받다表現は「~てもらう」「~される」のどちらにも対応する表現である。だが受身として翻訳すると不適切になる받다表現もある。以下の(15)の例は「手伝ってもらう」と恩恵表現を使用しているため、そこに恩恵が生じ問題はないが、受身形で「手伝われたのだ」とすると、「迷惑」の受身となる。使用する場面を誤ると、母語話者に不快感や誤解を与える可能性がある表現であるため、そこに恩恵が生じる場合には注意が必要である。

(15) その後、いろいろ手伝ってもらったのだ。　原文(キッチン, p.13)
그 후, 여러 가지로 도움을 받았다.　翻訳(키친, p.11)
＊その後いろいろ手伝われたのだ。　筆者訳

5.2.3　その他の表現

翻訳中には、受身にも能動にも分類不可能な、受け身の部分が脱落していたり、別の表現となったりした例も見られた[21)]。翻訳者が日本語の受身文を韓国語にすることが不可能であると判断し、それぞれの対応をしたことが考えられる。

(16) 私は夏休みを叔母の家にあずけられて過ごした。　原文(すいか, p.9)
숙모 집에서 방학을 보냈다.　翻訳(수박, p.9)
(叔母の家で休暇を過ごした。)　筆者訳

(17) その放り出された大きな蕪を見つけた。　原文(かぶ, p.176)
그곳에 왔다가 그 구멍 뚫린 커다란 순무를 발견했다.　翻訳(채소, p.178)
(そこに来て、その穴のあいた大きなカブを発見した。)　筆者訳

21) 表4では「その他」に分類した。

6. 結論

日本語小説、随筆とその韓国語翻訳、韓国語小説、随筆とその日本語翻訳を調査対象資料 として、日本語の受身表現「~れる」「~られる」と、それに対応する韓国語表現を比較対照分析した。その結果、日本語は韓国語と比べて受身の使用頻度が極めて高いことが証明された。また、日本語の受身表現に対応する韓国語表現を直訳することで、日本語表現と韓国語表現の差異をさらに明確にすることができた。

表わす言語事実は同じであっても、日本語では受身文で、韓国語では能動文で表現する場合が多い。日本語は韓国語と比べて受身文を多く使用する。受身文と能動文は責任の方向が異なる表現となる。受身文は責任が被動作主に向き、能動文では責任は動作主に向く。

日本語では自動詞の受身も存在し、ほとんどが迷惑を間接的に表現し、迷惑を被った原因は被動作主にもあるように表現している。だが韓国語では、能動文で表現するため、迷惑の原因は動作主だけに向けられる。そのため能動文で表現すると直接的な印象になる。一方、間接受身に被害迷惑を表わさない表現があるが、それについて、韓国語では주다を用いて明確に恩恵表現をする例として見られた。

韓国語に翻訳することが難しい日本語の使役受身文も、韓国語では能動文で表現されている。日本語の使役受身文では、行為が強制されることを間接的に表現し、逆らうことができない力によってなされた動作に対して、その結果を仕方なく受け入れる諦めの気持ちが感じられる表現であり、その行動が実行された責任の所在を明確にしない。それに対して、韓国語では主体が自らの意志でその行動に及んだこととなり、責任はその行動の実行者にあるというように、意味に相違が生じる。

伝聞を表わす表現についても、日本語では受身を使用して、発言者を曖昧にする。一方、韓国語ではほとんど能動表現を使用し、発言した主体を明らかにしている。韓国語では事実だけを客観的に叙述する傾向があるが、日本語では誰の発言であるかを曖昧にし、責任の所在を明確にしていない。日本語も韓国語も主語を省略することが多い言語であるが、能動表現となった韓国語では、動作主を主語とした表現が見られる。

能動文は肯定的な内容の場合は責任の所在が動作主にあり、積極的な好印象を与える表現となるが、否定的な内容では責任を動作主に向け、非難を向けることになる。日本語では、能動文ではなく受身文で表すことによって、非難の対象を直接動作主に向けないよう

に、無意識に配慮していると考える。つまり、相手の行為や意思に対して、対立や摩擦が生じることを回避している。また、相手を非難するのではなく、時には被動作主である自分に向ける傾向がある。そうすることによって、相手に与える否定的な印象を和らげているのである。

西洋語の翻訳の影響で発達した、非情の受身についても、日本語では受身表現をすることが多い。韓国語では能動表現を使用する例も見られたが、受け身表現も可能であることがわかった。所有の受身においても、韓国語では能動表現であった。

また、韓国語では受身と使役が同型のことがあるが、受け身と使役はさらに印象の差が生じる。つまり、受身で表現することで、自己主張を控える日本語には、謙虚さが現れるが、使役で表現すると、自己主張が強く、積極性が伝わる良い面もあるが、場面によっては傲慢さを感じさせる可能性があるため、 謙虚をよしとする日本語話者に対して使用する場合は注意が必要である。

韓国語においても被害を表わす表現は存在する。動作名詞＋당하다、맞다、받다のうち、당하다、맞다は否定的な内容を表わし、받다は中立的で「もらう」表現にも対応している。だが、韓国語の被害を表わす受身的表現は客観的であり、日本語の被害の受身とは意味的に相違がある。

日本文化論を韓国語話者の立場から唱えた李(2007)はその著書『縮み志向の日本人』の中で次のように述べている22)。「日本人の想像力の働きには、自分が外の世界の向かってでていくというより、それを自分のうちに招き、引き寄せようとする強い傾向があるのです。」つまり、日本人の想像力の型は、相手に向かって伝えようとする能動型ではなく、相手から招き引き寄せて受ける、受動型であるということだ。引き寄せの受動型の想像力タイプは日本人の配慮につながっている。

金谷(2010)によれば、言語構造はその母語話者の発想や行動に影響を与えていると言う。金谷は、英語話者の状況の高みから見下ろす「神の視点」に対して、日本語話者の持つ視点は「地上の視点」と呼んだ。地上の視点は対話の場にあり、そこには話し手と同じ方向を見つめる視線を持つ聞き手がいると言う。日本人の思いやり、気配り、共感、共鳴、共生、供視の姿勢は地上の視点が支えており、日本文化を理解する鍵であるとも述べている。

相手がどう受け止めるかを優先的に考えると、受身表現になり、自分がどう考えるかを優先的に考えると能動表現になる。この相違は言語構造あらわれた発想の違いであると考

22) 李御寧『「縮み志向」の日本人』p.53より引用。

える。伝えようとする内容は同じであっても、日本語話者にとって受身表現と能動表現は、語用的に受ける印象が異なる表現であることに注意が必要である。

能動表現から受身表現にスイッチを切り替えるには、自分の意思や主張を相手に向けるのではなく、相手の意思や行動を受け止める姿勢にすれば受身表現となる。日本人が無意識に多用する受身表現は、円滑な人間関係を保つための相手への気配り、つまり配慮の表現である。

【参考文献】

李吉遠(1991)「韓・日両言語の受身構文」『阪大日本語研究』3, pp.59-72
李御寧(2007)『「縮み」志向の日本人』講談社
李淑炫(2004)「会話の中の授受表現の現象―対訳本『冬のソナタ』」『学苑』764, pp.28-39
任瑚彬,洪璟杓,張淑人共著　蔡洙静訳(2007)『韓国語文法』延世大学出版部
内田聖二(2013)『ことばを読む、心を読む　認知語用論入門』開拓社
蟹江美幸(2013)「日本語『~てください』と韓国語『要求表現』の比較」『日本近代学研究』43, pp.49-71
蟹江美幸(2014)「日本語の使役表現と韓国語表現の比較―翻訳小説を資料とした韓日対照をとして―」『日本近代学研究』45, pp.74-91
金谷武洋(2010)『日本語は敬語があって主語がない「地上の視点」の日本文化論』光文社新書
蒲谷宏、川口義一、坂本惠(1998)『敬語表現』大修館書店
河村光雄著　佐治圭三、真田信治監修(2009)「第4章日韓対照」『言語一般　日本語教師養成シリーズ2』東京法令
河村光雅, 李秀炅(2010)『しっかり身につく 中級　韓国語トレーニングブック 』ベレ出版
北原保雄 編集(2011)『明鏡国語辞典』大修館書店
許明子(2004)『日本語と韓国語の受身文の対照研究』ひつじ書房
金仁和(2003)「韓国語の被動態についての小考」『文芸言語研究 言語篇』43, pp.23-40
ジェニートーマス(1998) 田中典子, 都留崎毅, 鶴田庸子, 成瀬真理他訳 浅羽亮一監修『語用論入門　話し手と聞き手の相互交渉が生み出す意味』研究社
Jenny, A. Thomas(1995)Meaning in Interaction: An Introduction to Pragmatics, Longman, London
清水崇文(2009)『中間言語語用論概論　第二言語学習者の語用論的能力の使用・習得・教育』スリーエーネットワーク
徐珉延(2007)「『Vてもらう』は韓国語でいかに現れるか―その出現形式と要因」『昭和女子大学大学院言語教育・コミュニケーション研究』2, pp.67-80
千英子、柏原卓(2006)「現代日本語の文学作品における受身文の研究:韓国語との対応関係分析を中心として」『和歌山大学教育学部紀要人文科学』56, pp.129-136
韓静妍(2010)「近代以降の日本語における非情の受身の発達」『日本語の研究』6,4, pp.47-61
白峰子著、大井秀樹訳、野間秀樹監修(2006)『韓国語文法辞典』三修社
水野康一(2001)「日本人英語学習者による語用論的能力の発達について」『香川大学経済論叢』74,2, pp.127-146
門和沙日娜(2007)「日中受身表現の対照―間接受身文に焦点を当てて－」『昭和女子大学大学院言語教育・コミュニケーション研究』2, pp.51-66
油谷幸利(2006)『間違いやすい韓国語表現100』白帝社
油谷幸利, 金恩愛(2012)『間違いやすい韓国語表現100 初級編』白帝社

デジタル大辞泉　小学館
https://kotobank.jp/word/%E8%AA%9E%E7%94%A8%E8%AB%9666411#E3.83.87.E3.82.B8.E3.82.BF.E3.83.AB.E5.A4.A7.E8.BE.9E.E6.B3.89　(2014年12月5日検索)

【言語資料】

江國香織(1998)『すいかの匂い』新潮社(総24頁)
에쿠니 가오리, 김난주 역(2012)『수박 향기』소담(総14頁)
江國香織(2001)『ホテルカクタス』ビリケン出版 (総150頁)
에쿠니 가오리, 신유희 역(2013)『호텔선인장』소담출판사(総179頁)
김중혁(2008)『악기들의 도서관』문학동네　(総138頁)
金重赫, 波多野節子訳(2012)『楽器たちの図書館』NHK出版(総111頁)
皮千得, 李春子翻訳(2006)牧野健一翻訳協力 裵正烈編集『対訳 ピ・チョンドゥク随筆集』アルク(総126頁)
湊かなえ(2008)『告白』双葉社(総267頁)
미나토 가나에, 김선영 역(2009)『고백』비채(総267頁)
村上春樹(2011)『おおきなきあぶ、むずかしいアボカド』マガジンハウス(総217頁)
무라카미 하루키, 권남희 역(2012)『채소의 기분,바다표봄의키스』비채(総219頁)
吉本ばなな(1989)『キッチン』『満月』福武書店(総164頁)
요시모토 바나나, 김난주 역(1999)『키친』『만월』민음사(総111頁)

논문투고일 : 2014년 12월 10일
심사개시일 : 2014년 12월 20일
1차 수정일 : 2115년 01월 08일
2차 수정일 : 2015년 01월 14일
게재확정일 : 2015년 01월 19일

〈要旨〉

日本語の受身表現と韓国語表現の比較

－ 翻訳小説を資料とした韓日対照を通して －

日本語にも韓国語にも「受身」に相当する形態があるのにもかかわらず、上級学習者でも使うべきところで適切な受身表現を使用することが難しいという。日本語では受身表現を使用する場面で、韓国語では能動表現を使う場合がある。叙述内容は同じであっても、受け手である日本語話者の印象は大きく異なる。

本研究では日本語小説や随筆に現れた日本語の「れる」「られる」表現と、それに対応する韓国語表現を比較対照し、日本語の受身表現の特徴と韓国語表現との相違点について考察した。結果、日本語の受身表現の約半数が、韓国語では能動表現で対応していることがわかった。また、日本語は韓国語と比べて受身表現を使用する頻度が高い。

受身文は責任が被動作主に向き能動文は責任が動作主に向く。日本語では受身を多用して、その行動の責任の所在を曖昧にしたり、非難の対象を動作主に向けないようにしたり、使役受身文においては、その行為の結果を仕方なく受け入れる諦めの気持ちもあらわしている。日本語の受身は、摩擦や対立を回避する、日本人の配慮につながる表現である。日本語話者は自分へ引き寄せる受身の姿勢で、円滑な人間関係を保っているといえる。

A comparison of Japanese passive expressions and Korean expressions

－ Through the contrast of Japanese and Korean expressions in translated fiction －

Although there is a form that corresponds to the "passive" both in Korean and Japanese, it is difficult for even advanced learners to use the appropriate passive expression where they should use it.

It is said in situations that Japanese use passive expressions, Korean often use the active voice. Even when narrative content is the same, Japanese native speakers would feel it differently.

In order to clarify the pragmatic differences of both languages, I compared the Japanese and Korean expressions, which correspond to Japanese translation of ‘-reru’ and ‘-rareru’.

A result, I found out that in more than half situations we Japanese use the passive expressions, Korean use active expressions. Also, Japanese language has a high frequency of use of passive expressions compared to Korean language.

Between the passive and active, there is a clear difference, such as the following. In the passive sentence, responsibility is directed to the person who receives the behavior, and in the active sentence, responsibility is directed to those who do the behavior.

By passive expressions we Japanese try to avoid friction and conflict. Japanese speakers show politeness, by using the way to attract the thing to themselves, and try to maintain a smooth relationship.